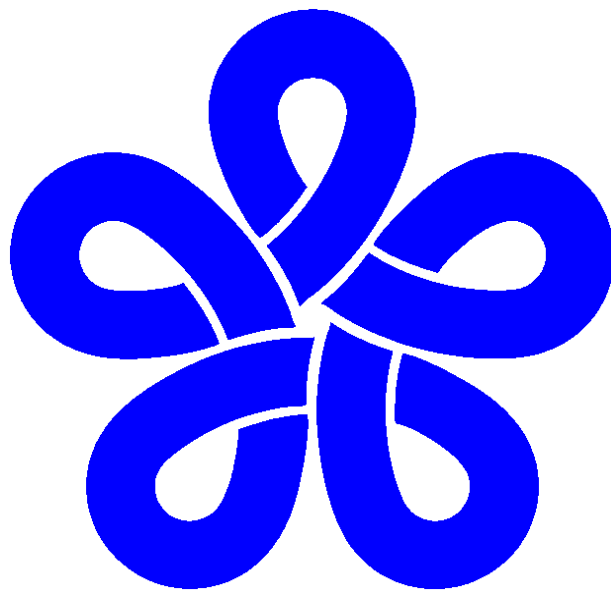


令和7年11月
パリ訪問団 報告書



令和7年11月23日～27日
福岡県議会

【はじめに】

近年、世界は人口減少、気候変動、感染症、エネルギー問題など、従来の枠組みでは対応が困難な課題に直面している。そのような中、地方自治体においても地域課題への対応にとどまらず、国際社会との連携を深めながら新たな知見を取り入れ、地域の持続的な発展につなげていくことが求められている。

本訪問は、福岡県が推進する食・農業・観光・環境・ワンヘルスなどの施策について、現地における先進的な取組や国際機関との意見交換を通じ、その成果と課題を把握するとともに、今後の県政運営に資する知見を得ることを目的として実施したものである。

現地では、自治体国際化協会（CLAIR）パリ事務所をはじめ、世界的なガストロノミー評価機関であるラ・リスト、水素モビリティを推進する HysetCo、国際獣疫事務局（WOAH）などを訪問し、福岡県の魅力発信や国際連携、持続可能な社会づくりに向けた意見交換を行った。

また、ワールド・ワンヘルス・ कांग्रेस 2028 福岡開催に向けた取組についても理解を深めるとともに、福岡県が推進するワンヘルスの理念や政策が国際的にも高い評価を受けていることを改めて確認することができた。今回の訪問で得られた知見及び人的ネットワークを県政の発展に着実に反映させることが重要である。

【目的】

フランス・パリで開催される世界的グルメサイト「ラ・リスト」の主催イベントにおいて、本県の多彩な食と優れた工芸品を直接発信し、海外における認知度向上を図るほか、八女茶の輸出促進に向けた現地茶商との意見交換、ワールド・ワンヘルス・ कांग्रेसの福岡県誘致活動等を行うため、知事からの参加要請を受け、9月定例会で議決した議員派遣に基づきパリを訪問するもの。

また、今回の訪問に併せて、自治体国際化協会パリ事務所とフランスでの本県の工芸品の認知度や訪日旅行の動向についての意見交換等を行う。

【日程】

令和7年11月23日（日）～27日（木）

【参加者】

福岡県知事	服部 誠太郎
福岡県議会議長	藏内 勇夫
福岡県議会 自民党県議団会長	松尾 統章
福岡県議会 民主県政県議団会長	岩元 一儀
福岡県議会 公明党福岡県議団団長	新開 昌彦
福岡県議会 新政会福岡県議団会長	椛島 徳博
福岡県議会議員	笠 和彦
福岡県議会議員	永川 俊彦
福岡県議会議員	中嶋 玲子

（随員職員）秘書室1名

商工部観光局長 ほか4名

議会事務局 ほか2名

11月24日

●自治体国際化協会（クレア）パリ事務所との意見交換

【訪問先概要】自治体国際化協会（クレア）パリ事務所

一般財団法人自治体国際化協会（Council of Local Authorities for International Relations: 略称 CLAIR [クレア]）がパリに設置している海外事務所。日本の地方自治体関係者の海外での活動の支援や海外と日本の地方自治体間の国際交流の推進を図るとともに、所管各国の地方自治に関する調査研究活動や日本の地方自治制度等に関する情報の海外の地方自治関係者への提供などを行っている。

設立：1990年

所管：フランス、ベルギー、ルクセンブルグ、スイス、イタリア、スペイン、ポルトガル、モナコ

（CLAIR Paris HP 参照）

【報告】

棕田所長からパリ事務所の概要、フランスの社会経済情勢や訪日観光の傾向、伝統工芸品の企画展事業等について説明を受ける。

・訪日観光市場

フランス人観光客の平均滞在日数は18日間と長く長期滞在型。日本文化の理解や伝統体験、地方観光への関心が強く、都市部だけでなく中部、四国、九州への訪問率が高い。観光客が地方エリアに求めているものは、「多くの人が訪れていないところ」。有名観光地だけではなく、地域の隠れた宝があるというPRが効果的ではないか。

また、「地方へのアクセス」や「言葉の心配がない」ことも求められている。

ストーリーを重んじて、見たものの歴史や背景を知りたいという傾向があるので、ガイドが説明できることが重要。

長期滞在型なので、1県だけを目指してくるというより、いろんなところを見て回るというニーズがあるため、福岡を玄関口として九州一円を回ってもらうというPRが効果的と思われる。

・企画展

日本の地方の伝統工芸品を展示・販売する事業。販売まで行うのでテストマーケティングの機会としても活用できることが特徴。



【所見】

今回の意見交換を通じて、欧州における訪日旅行のニーズは、「見る観光」から「体験する観光」へと大きく変化していることを改めて認識した。特に、地域固有の歴史や文化、食、自然、ものづくりなど、その土地ならではの価値を求める旅行者が増加しており、本県が有する多彩な地域資源は国際市場において十分な競争力を有していることを確認した。

また、福岡県は九州の玄関口として優れた交通利便性を有しており、県内のみならず九州全域への周遊観光を促進する拠点として重要な役割を担っている。今後は、本県が有する食文化や伝統工芸、歴史文化資源、豊かな自然環境などを有機的に結び付け、「福岡でしか体験できない価値」を国内外へ積極的に発信していくことが重要である。

さらに、観光振興は宿泊業や飲食業のみならず、農林水産業、伝統工芸、交通、商業など幅広い産業への波及効果を有する重要な地域振興策である。人口減少が進展する中、交流人口の拡大は地域経済の持続的な発展に不可欠であり、地域資源の磨き上げと戦略的な情報発信、さらには受入環境の一層の充実を図ることで、「世界から選ばれる福岡県」の実現につなげていく必要があると考える。

なお、棕田所長からは、ぜひ福岡県の職員をしてほしいとの要望を受けた。

●サン・ドニ・プレイエル駅の視察

【訪問先概要】サン・ドニ・プレイエル駅

新たな環状の地下鉄ネットワークによって、パリ中心部の過密と環境悪化を解消しようとして2007年に始まったGrand Parisプロジェクトの、パリ北部のハブ駅。

駅全体を屋上緑化し、大地とスロープによってつなぐことで公園化し、駅をハコとしてではなく、コミュニティのためのパブリックスペースとして再定義した。この立体公園はそのままブリッジとなって、線路の上をまたぎ、フランス北部からの鉄道幹線による地域の分断の解消も試みた。

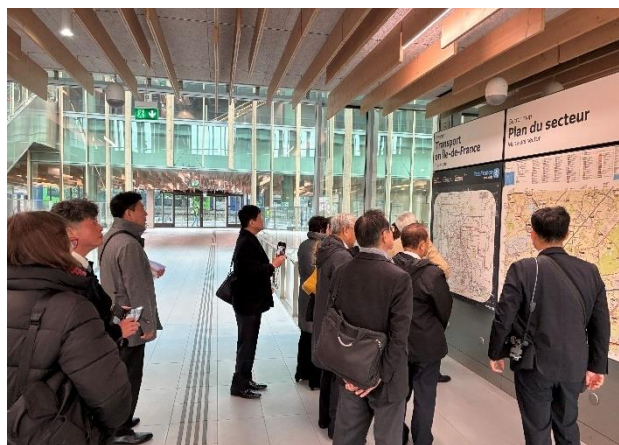
「緑の駅」は、木「オーク」でできたカーテンウォールでやわらかく包まれ、4本のメトロへとアクセスする30メートルの深さのアトリウムも、すべて木で覆われ、コンクリートと鉄で作られてきた従来の駅とは対照的な、やわらかく暖かい空間が生まれた。屋上庭園は分断した地域をつなぎ直し、木のアトリウムは、大地と空とをつなぎ直す。アトリウムにはアーティスト、Prune Nourryによる、大地の母を想起させる108体のヴィーナスが置かれている。

(隈研吾都市建築事務所 HP 引用 <https://kkaa.co.jp/project/saint-denis-pleyel-station/>)

【報告】

パリ北部にあるサン・ドニ・プレイエル駅を訪れ、同駅を街の地域活性化を図るコミュニティスペースとして設計した隈研吾建築都市設計事務所の案内のもと、木材をふんだんに使用し、自然光が差し込む開放的で温かみのある空間が印象的な駅舎を視察した。

- ・サン・ドニ市は、鉄道幹線により2つの地域に分断されているという課題があり、当駅はその解消を図ることも目的とされている。
- ・駅の外装にも内装にも木材が多く使用されており、利用者に安心感を与えている。木は生き物であり大切に使うべきということから、木の節の部分も使っており、ワンヘルスの理念に通じる考え方により建築されている。
- ・地域住民にとって街のコミュニティスペースとして活用できるよう文化活動を行えるスペースも整備される予定。
- ・フランスでは、法律により公共建築物を建築する際に費用の1%を建築に付随する芸術のために支出することとされているため、当駅でも108体のヴィーナス像を置く予定。



内装には木材が多く使用されている

【所見】

今回の視察を通じて、公共交通施設は単なる移動のためのインフラではなく、都市の魅力や地域コミュニティを形成する重要な社会基盤であることを改めて認識した。

特に、鉄道によって分断されていた地域を駅と歩行者空間、公園及び広場によって再び結び付ける都市計画は、交通政策とまちづくりを一体的に進める先進的な事例であり、人口減少や少子高齢化が進展する我が国においても大いに参考となる取組である。

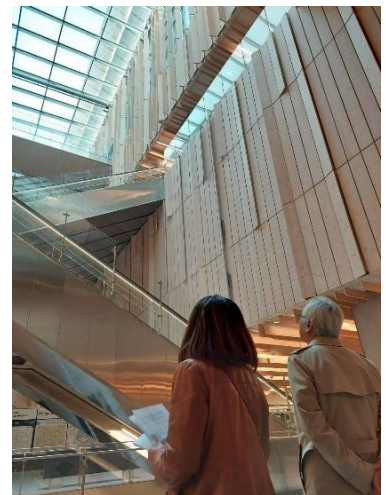
また、木材を積極的に活用した建築や、資源循環を意識した設計、自然との調和を図る空間づくりは、環境負荷の低減に加え、人々の健康や快適性、さらには地域への愛着の醸成にも寄与するものであり、本県が推進するワンヘルスの理念とも親和性の高い考え方であると認識した。

さらに、文化芸術を公共空間へ積極的に取り入れることで、地域の魅力向上や交流人口の拡大を図る取組は、公共施設に新たな価値を付加する有効な手法であると考えます。

福岡県においても、公共施設の整備に当たっては、安全性や利便性に加え、環境との共生、地域コミュニティの形成、文化芸術の活用など、多面的な視点を取り入れたまちづくりを推進することが重要である。今回得られた知見を今後の都市政策や公共施設整備に活かし、県民が安心して暮らし、地域に誇りを持てる持続可能な地域社会の形成につなげていく必要があると考える。

駅周辺は移民が多く住むスラム街だが、パリを結ぶ駅を作ることによって、安全な住居、ビジネス街を融合し、若い働く世代を呼び込む新しい「街づくり」政策となっている。

駅ビルにトイレ個室が2か所しかないことで、安全面に特に注意を払っていることに驚きを覚えた。



●ラ・リスト主催イベントでのPR

【訪問地概要】ラ・リスト

アルゴリズムに基づいたグルメガイドとレビューの情報蓄積サイト。世界最高峰レストランのランキングに始まり、優良ブーランジュリィ・パティスリィ（ランク付けなし）、さらに2023年―24年シーズンからは最優秀ホテルトップ1000も選出している。

毎年フランス・パリの外務省で開催される授賞式では世界23か国・地域からシェフ等が参加し、優秀シェフ（Top 8）が発表される。

福岡県は2024年10月、特別賞「ガストロノミーの新たな目的地賞」を受賞している。

【報告】

世界的グルメサイト「ラ・リスト」が、フランス外務省で開催した国際イベントにおいて、世界トップクラスのシェフやホテル、メディア関係者などに対して、福岡の食と伝統工芸の魅力を発信した。

会場内では、福岡県ブースが設置され、本県出身のフレンチシェフ・福山剛氏監修による県産食材を使用した料理やチョコレートが提供された。

また、料理に加えて、八女茶や県産酒が提供されるとともに、レストランでの利用が可能な器類の展示、博多人形、久留米絣、博多織といった伝統工芸品を一体的に紹介することで福岡の食と伝統工芸の魅力を発信した。



ラ・リスト代表フィリップ・フォール氏
(右から2人目)



福岡県ブース





福山剛氏（右端）



【所見】

今回のイベントを通じて、海外市場においては、単に優れた商品を紹介するだけではなく、その背景にある歴史、文化、風土、生産者の想いを含めて発信することが、地域ブランドの価値向上につながることを改めて認識した。

特に、食と伝統工芸を一体的に紹介することにより、「福岡県」という地域ブランド全体の魅力を効果的に発信できることが確認できた。器一つ、茶一杯に至るまで地域文化として伝えることで、単なる物産展とは異なる高い付加価値を生み出していたことが大変印象的であった。

人口減少に伴い国内市場の縮小が見込まれる中、県産品の輸出促進や海外市場の開拓は、本県産業の持続的な発展に不可欠である。また、食文化は観光振興とも密接に結び付いており、「福岡で本物を味わいたい」という訪日需要を創出することは、交流人口の拡大や地域経済の活性化にも大きく寄与するものとする。

さらに、ガストロノミーツーリズム（食を目的とした観光）の世界的な広がりを踏まえると、本県が有する豊かな食文化、農林水産物、伝統工芸を一体的な地域資源として磨き上げ、戦略的に国内外へ発信していくことは、福岡県ブランドの価値向上に直結する重要な取組である。

今後も、生産者、料理人、伝統工芸事業者、行政が連携し、本県ならではの魅力を総合的に発信することで、県産品の販路拡大と交流人口の増加を図り、「食文化先進県・福岡」のブランド確立に向けた施策を一層推進していく必要があると考える。

11月25日

●フランスの茶商との意見交換

【訪問先概要】ル・パルティ・ドウ・テ社

2005 年創業。今年創業 20 周年を迎えた。

創業者であるピエール氏が学生時代に中国を旅したことがきっかけとなり、お茶の魅力と出会う。その後、貿易会社でバイヤーの経験を経て、独立に至る。

同社では、現在、パリ市内に茶専門道を 2 店舗展開するとともに、パリの高級百貨店を含む、多くの顧客に質の高いお茶を販売している。

(店舗 HP から引用 <https://www.lepartiduthe.com/fr/content/6-qui-sommes-nous>)

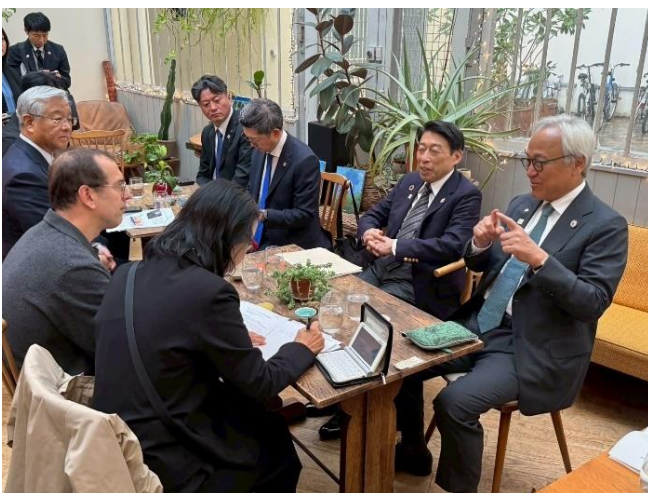
本県との関わり

- ・2018 年（平成 30 年）2 月、輸出促進課の事業でル・パルティ・ドウ・テ社代表のピエール・ルブラン氏を本県に招へいし、八女茶の産地視察を実施。
- ・同年 11 月から翌年 2 月にかけて、ル・パルティ・ドウ・テ社の店舗にて八女茶の常設コーナーを設置。常設コーナーの初日には、お茶の淹れ方教室を開催した。
- ・産地視察を契機に、同社は八女茶の取り扱いを開始し、「星野製茶園」（八女市星野村）との取引を現在も継続。

【報告】

八女茶を取り扱うル・パルティ・ドウ・テ社のピエール・ルブラン代表と会談し、八女茶の販売状況や市場での評価、消費者層の傾向について伺い、効果的なプロモーション手法について意見交換を行った。八女茶は現地でも高い評価を受けており、今後の販路拡大に向けた継続的な連携を確認した。

蔵内議長は、「八女茶は、毎年、国内の審査会で日本一を 20 年以上取り続けており、福岡県と福岡県議会は、車の両輪となって国内外で PR に努めている。自信を持って八女茶をお勧めする」と挨拶した。



八女茶をいただきながら意見交換



八女茶が販売されている店舗



【所見】

今回の意見交換を通じて、八女茶は品質面において国際市場でも十分な競争力を有していることを改めて確認するとともに、海外展開においては「品質」に加え、「歴史」「文化」「生産者の想い」といった地域の物語を一体的に発信することの重要性を認識した。

また、輸出促進は農産物の販路拡大にとどまらず、生産者所得の向上、担い手の確保、地域ブランドの確立など、本県農業の持続的発展にも大きく寄与するものである。人口減少に伴う国内市場の縮小を見据えると、海外需要の獲得は今後ますます重要な施策となる。福岡県は、日本有数の茶産地である八女地域をはじめ、多様で高品質な農林水産物を有している。今後は、行政、生産者、関係団体及び輸出事業者が一体となり、海外市場のニーズを的確に捉えながらブランド戦略を強化し、県産農産物の輸出拡大と地域経済の活性化につなげていく必要があると考える。

社長からは、無農薬の八女茶栽培を広げてほしいとの要望があった。更に、「お茶を民主化したい」と意見があった。

フランスのほとんどの家には、「急須」も「湯飲み茶わん」もない。1リットルのお湯を70度にして10gの茶葉を入れ、2～3分待つてコップに注ぐことを伝えている。健康志向によってリピーターが多い。正式な茶道を取り入れたいという希望をいただいた。

●水素モビリティの新興企業HysetCoとの意見交換

【訪問先概要】HysetCo 社

トヨタ自動車とフランスのガス会社、エネルギー会社、タクシー会社が 2019 年に設立した水素サービスを一括提供する合弁会社。フランスパリ近郊を拠点に、燃料電池自動車 (FCV) タクシーなど約 800 台、水素ステーション 8 基を運用。

【報告】

HysetCo (ハイセットコー) 社は、トヨタ自動車とフランスのガス会社、エネルギー会社などが出資する合弁会社で、水素ステーション整備や水素製造、燃料電池タクシーの運行や車両メンテナンスまで一体的に手掛ける企業である。同社を訪問し、ロイック・ヴォワザン社長と福岡県の水素利活用戦略を共有するとともに、今後の水素モビリティの本格普及に向けた取組や、カーボンニュートラル実現へのワンヘルスの貢献について、活発な意見交換を行った。

水素燃料電池の車両や水素の価格はまだ高く、普及の最大の課題となっているが、同社では、車両メーカーはまとまった台数を導入することで車の値段を、水素を製造する会社はまとまった量を供給することで水素の供給価格を抑え、協力して全体コストを下げることで、市場への普及を目指している。こうしたパートナーシップの重要性について再認識した。



意見交換



工場内を視察



【所見】

今回の視察を通じて水素社会の実現には技術開発だけでなく、行政、企業、研究機関及び地域社会が一体となって社会実装を進めることが不可欠であることを改めて認識した。

HysetCo の取組は、水素の「製造・供給・利用」を一体的に推進することで市場を形成し、脱炭素化と産業振興を同時に実現しようとする先進的なモデルであり、本県の今後のGX 政策を推進する上でも大変参考となるものであった。

福岡県では、水素・燃料電池関連産業の集積をはじめ、グリーン成長戦略の推進に取り組んでいるところであり、水素エネルギーは 2050 年カーボンニュートラルの実現に向けた重要な柱の一つである。今後は、産学官の連携をさらに強化し、水素関連産業の育成、技術革新への支援及びインフラ整備を着実に進めることで、環境と経済が調和した持続可能な地域社会の実現を目指す必要がある。

また、GX への取組は環境負荷の低減だけでなく、新たな投資や雇用を生み出し、地域経済の活性化にも大きく寄与することが期待される。今回得られた知見を今後の県政運営に活かし、福岡県が全国をリードする水素先進地域としてさらなる発展を遂げるよう、積極的な施策の推進に努める必要があると考える。

●福岡県観光セミナー・交流会

現地の旅行会社やメディア関係者約70人を招いて県主催の観光セミナーが開催された。大相撲九州場所や、福岡・九州が舞台の「ツール・ド・九州」など、欧州の関心が高いスポーツ・文化資源を中心に紹介があったほか、フランス人プレゼンターからは、ネイティブ目線で、福岡の自然・工芸・食文化が紹介された。また、セミナー後の交流会では、来場者に対して福岡県のPRを行った。



セミナー



交流会



【所見】

今回の観光セミナー及び交流会を通じて、欧州における観光需要は「観光地を巡る旅行」から、「地域の文化や暮らしを体験する旅行」へと大きく変化していることを改めて認識した。

福岡県は、食文化、伝統工芸、歴史、自然、祭りなど、多様な地域資源を有しており、それぞれが高い魅力を備えている。しかし、それらを個別に発信するだけではなく、「福岡ならではの物語」として一体的に伝えることが、海外市場におけるブランド価値の向上につながるものとする。

また、インバウンド観光は宿泊業や飲食業だけでなく、農林水産業、伝統工芸、交通、商業など幅広い産業に経済効果をもたらす重要な成長分野である。人口減少が進展する中、交流人口の拡大は地域経済を支える重要な柱となることから、海外市場を見据えた戦略的な観光政策を継続的に推進していく必要がある。

加えて、近年は旅行先の選択において環境への配慮や地域社会との共生といった持続可能性が重視されるようになっており、本県が推進するワンヘルスの理念や豊かな自然環境、地域に根差した食文化は、福岡県独自の魅力として積極的に発信すべき重要な地域資源である。

今後は、九州の玄関口としての地理的優位性を活かしながら、県内各地域への周遊促進を図るとともに、地域の魅力を世界へ発信する観光戦略を一層推進し、「世界から選ばれる観光県・福岡」の実現につなげていく必要があると考える。

旅行会社から、ヨーロッパから韓国の「仁川国際空港」を使った九州旅行が商品になるのではないかと提案があった。

11月26日

●国際獣疫事務局（WOAH）パリ本部訪問

【訪問先概要】WOAH

World Organisation for Animal Health。1924年設立。182の国と地域が加盟。本部はパリ。世界の動物衛生の向上を目的とする政府間機関。動物衛生や人獣共通感染症に関する国際基準の策定等を行っている。1992年、アジア太平洋地域事務所を東京に開設。

【報告】

国際獣疫事務局（WOAH）パリ本部を訪問し、モンセラート・アロヨ副事務局長に対して、福岡県のワンヘルスの取組を紹介するとともに、ワールド・ワンヘルス・ कांग्रेस（*）2028年大会の福岡誘致に向けた支援を要請した。

藏内議長は、「福岡県で推進しているワンヘルスの取組は、日本の高市首相をはじめ、多くの方から支持を得ており、以前、広島で開催されたG7サミットでもワンヘルスの重要性が確認された。来年4月の東京で開催される世界獣医師会大会でも、ワンヘルスを世界にアピールしたいと考えている。2028年のワールド・ワンヘルス・ कांग्रेसの福岡誘致に是非ご支援いただきたい」と挨拶した。

アロヨ副事務局長からは「是非支援させていただきたい」という力強い言葉をいただいた。また、その後の意見交換においても、アロヨ副事務局長から、ワンヘルスの取組に関する連携強化に前向きな姿勢が示されたほか、福岡県の取組について、教育、ワンヘルス認証制度などについて、高い評価をいただいた。

また、COVID19（新型コロナウイルス感染症）の際は、医師が対応の中心だったが、今後は、獣医師も法的に関わっていく仕組みづくりが重要であるという認識を共有した。

*人・動物・環境の健康とウェルビーイングの向上に向け、分野横断的で協働的なアプローチを推進することを目的として、医・獣・農・環境等の研究者が一堂に会し、ワンヘルスに関して重要な課題や研究成果、政策動向等について議論する世界最大のフォーラム



意見交換



福岡県誘致の要請書を手交

【所見】

今回の訪問を通じて最も強く認識したことは、福岡県が推進するワンヘルスの取組が、世界動物保健機関（WOAH）において、自治体実践する先進的なワンヘルスモデルとして高く評価されていることである。

福岡県では、条例制定を起点として、推進行動計画、教育・人材育成、研究体制、ワンヘルス認証制度、国際連携までを一体的に推進しており、こうした包括的な政策展開は世界的にも先進的な取組であることを改めて認識した。WOAH が公表したケーススタディにおいても、本県の取組は国際的なワンヘルス共同行動計画（OH JPA）の理念を地域レベルで具体化したモデルとして紹介されており、世界の自治体が参考とすべき実践例として位置付けられている。

また、ワンヘルスは感染症対策のみならず、食の安全、環境保全、持続可能な農業、生物多様性の保全など、幅広い分野に関わる政策理念であり、人・動物・環境の健康を一体的に守ることによって、県民の安全・安心な暮らしと地域社会の持続的な発展を支える重要な考え方である。

2028 年に開催されるワールド・ワンヘルス・コンGRESSは、福岡県の先進的な取組を世界へ発信する絶好の機会であり、国際的な学術交流や研究連携の促進に加え、観光振興、産業振興及び交流人口の拡大など、多方面への波及効果が期待される。

福岡県議会としても、県執行部及び関係機関との連携を一層強化し、ワンヘルスを本県の重要な政策ブランドとして国内外へ積極的に発信するとともに、「世界に学び、世界から学ばれる福岡県」の実現に向けた取組を力強く推進していく必要があると考える。

WOAH の HP にワンヘルスの実践事例として取り上げられた。

「福岡県 日本における地方レベルでのワンヘルスの推進」

【参照】

<https://www.woah.org/en/document/one-health-in-action-fukuoka-prefecture-advancing-one-health-at-the-sub-national-level-in-japan/>

【総括】

今回のフランス共和国（パリ）訪問では、福岡県の食や伝統工芸の魅力発信、八女茶をはじめとする県産品の海外展開、観光振興に関する情報収集、水素社会の実現に向けた先進事例の調査、さらにはワールド・ワンヘルス・コンGRESS 2028 福岡開催に向けた国際連携など、多岐にわたる分野について現地調査及び関係機関との意見交換を行った。

今回の訪問を通じて改めて認識したことは、福岡県が有する食文化、農林水産業、伝統工芸、豊かな自然環境、さらにはワンヘルスをはじめとする先進的な政策が、国際社会において高い評価を受ける大きな可能性を有しているということである。

特に、欧州では地域固有の歴史や文化、人々の暮らしを体験する「体験価値」が観光の重要な要素となっており、本県が有する多様な地域資源は、適切な情報発信とブランド戦略により、更なる交流人口の拡大と地域経済の活性化につながる可能性を十分に有していることを確認した。

また、ラ・リストをはじめとする国際的なイベントでは、本県の食文化や伝統工芸が高い関心を集め、八女茶をはじめとする県産品についても品質のみならず、その背景にある歴史や文化が高く評価されていた。今後は、地域資源を個別に発信するだけでなく、「福岡県ブランド」として一体的に発信し、その価値を国内外へ広く訴求していくことが重要である。

さらに、水素モビリティの先進事例を通じては、脱炭素社会の実現には技術革新だけではなく、行政、企業、研究機関及び地域社会が一体となった社会実装が不可欠であることを再認識した。GX（グリーントランスフォーメーション）の推進は、環境負荷の低減に加え、新たな産業や雇用の創出にもつながるものであり、本県が将来にわたり持続的に発展していくための重要な政策分野である。

今回の訪問において最も印象的であったのは、世界動物保健機関（WOAH）において、福岡県が推進するワンヘルスの取組が、自治体レベルにおける世界的な先進モデルとして高く評価されていたことである。WOAH が公表したケーススタディでは、本県の取組は、条例制定、行動計画、教育、人材育成、認証制度及び国際連携を一体的に推進するモデルとして紹介され、国際的なワンヘルス共同行動計画（OH JPA）の理念を地域レベルで実践する先進事例として位置付けられている。これは、本県が長年にわたり積み重ねてきた政策が、世界に向けて発信できる大きな財産であることを示すものであり、県民にとっても大きな誇りとなる成果である。

人口減少や少子高齢化、気候変動、感染症への対応、エネルギー転換など、地方自治体を取り巻く課題はますます複雑化・多様化している。このような時代にあっては、地域の課題を地域だけで解決するのではなく、世界の先進事例から学び、国際社会との連携を深めながら新たな価値を創造していく視点がこれまで以上に重要となる。

福岡県は、アジアへの玄関口としての地理的優位性に加え、世界に誇る食文化、豊かな自然環境、高度なものづくり産業、そして全国に先駆けて推進してきたワンヘルスという独自の政策資産を有している。これらを有機的に結び付けながら、地

域経済の活性化と県民福祉の向上を図ることが、今後の県政運営に求められる重要な視点である。

今回得られた知見及び国際的な人的ネットワークは、福岡県の将来を展望する上で極めて貴重な財産となるものである。福岡県議会としても、県執行部及び関係機関との連携を一層強化し、今回の訪問成果を県政へ着実に反映させるとともに、福岡県の魅力と可能性を国内外へ積極的に発信し、「世界に学び、世界から学ばれる福岡県」の実現に向けて全力で取り組んでいくことが重要である。

以上、本訪問により得られた成果を今後の県政運営に十分に活かし、持続可能で活力ある福岡県の実現に向けて不断の努力を重ねていくことを申し述べ、本報告の総括とする。

パリ訪問団(議会)日程案

【令和7年11月23日(日)～11月27日(木)】

月日	時刻	場所
11 月 23 日 (日)	8:20	第2ターミナル国際線3階ロビー(インフォメーション前)集合
	9:50	羽田空港発(NH215) 14時間40分
	16:30	パリ＝シャルル・ド・ゴール空港着
	18:30	ホテルチェックイン
		【パリ泊】
11 月 24 日 (月)	10:00	自治体国際化協会(クレア)パリ事務所との意見交換
	14:30	サン・ドニ・プレイエル駅
	18:00	ラ・リスト主催イベント
		【パリ泊】
11 月 25 日 (火)	10:30	茶商との意見交換会
	15:00	水素タクシー事業者との意見交換
	19:00	観光セミナー・交流会
		【パリ泊】
11 月 26 日 (水)	10:00	国際獣疫事務局(WOAH)との意見交換
	15:30	パリ市内発
	16:30	パリ＝シャルル・ド・ゴール空港着
	18:30	パリ発(NH216) 13時間40分
		【機中泊】
11 月 27 日 (木)	16:10	羽田空港着
	18:00	羽田空港発(NH267)
	20:00	福岡空港着
	19:25	羽田空港発(NH457)